

コロナ下 不平等拡大

超富裕層 460兆円の資産増

【ベルリン＝桑野白 馬】フランスの経済学者トマ・ピケティ氏が設立した世界不平等研究所は7日、新型コロナウイルスの感染拡大が始まった2019年から21年にかけて、世界で2750人前後の「超富裕層」が資産を400兆円以上増やした世界不平等研究所は、この結果、約2750人が世界全体の富の36%の富を所有していることになりました。

調査によると、超富裕層は、2年間で3兆6000億円（約460兆円）の富を増やしました。この結果、約2750人が世界全体の富の36%の富を所有していることになりました。1995年時点では、この割合は1%だったことから、格差が深刻化していることが分かります。同研究所のルーク・シャンセルは、国家が経済に介入した事例に言及。途

上国ではこの原資がなく、雇用を守る政策も打ち出せなかったと指摘し、「富が富裕層に集中していることを考えれば、適切な累進課税は政府に大きな収入をもたらす」と警告しました。

シャンセル氏は、支援を打ち出した国で膨らんだ負債の返し方についても触れ、「付加価値税が上がったり、公共サービスが削減されたりすれば、コロナ禍で最も影響を受けた低所得層を直撃する。富裕層に応能の負担を求めるのが筋だ」と付け加えました。

1億人 極度の貧困状態に